

事例で深める!

# 学習評価

実践校の取り組みを基に、  
学習評価をより充実させるポイントを  
田村先生がアドバイス

## 大分県立大分雄城台高校 おぎのだい

### 「単元デザインシート」を活用し、

### 目標・指導・評価の一体化を図る

#### 単元デザインシートを科目単位 で作成し、教師・生徒で共有

**田村** 教科横断で資質・能力を育む貴校の取り組みの記事を拝見しました(\*)。学校教育目標を日々の授業や学習評価にまで落とし込む仕組みを整えられていますね。

**小野** 本校は校訓や学校教育目標に基づき、育成を目指す資質・能力を「情報整理力、課題解決力、発信力、協働、自他の尊重、チャレンジ精神」と定義し、それらを全教科・科目で育むため、2021年度から「単元配列表」(図1)と「単元デザインシート」(図2)を運用しています。  
単元配列表は全教科・科目の単元構成を学年ごとに一覧で俯瞰で

さる表です。各単元の学習材(図

1(A)や重点的に育成する資質・能力を色分けして示しています(図

1(B)。単元デザインシートは単元目標や学習課題、単元末課題(図

2(C)、そして評価基準(図2(D)などを1枚にまとめたもので、科目単位で作成しています。それら

は教師間はもちろん、生徒とも事前に共有し、生徒自ら見通しを持つて学べるようにしています。

**田村** 校訓や学校教育目標を踏まえて育成を目指す資質・能力を策定することから、それらを教育課程に反映して授業で育成し、評価することまでが見事に構造化されています。単元配列表によって6つ

の資質・能力をバランスよく育成

する教育課程になっているかを教師・生徒が把握でき、教師は他教科・科目と連携した指導がしやすいの

ではないでしょうか。目標・指導・評価の一体化に向けて、多くの学校の参考になる仕組みだと思えます。

**小野** 教師間で授業内容や評価規準の目線がそろい、生徒は単元目標や身につけるべき資質・能力を意識して学ぶようになりました。一方で、毎年教師の異動があるため、取り組みの継続・発展が課題です。

**田村** 貴校の仕組みが授業をよりよくする上で有効だと、赴任した教師が実感できるよう、仕組みを理解する場をいかにつくるかが鍵になります。例えば、生徒の資質・

#### 大分県立大分雄城台高校プロフィール



小野裕史(指導教諭。授業力向上プロジェクトリーダー。国語科)

設立 1973(昭和48)年  
形態 全日制/普通科/共学  
生徒数 1学年約240人  
2024年度卒業生進路実績 国公立大は、電気通信大、東京学芸大、山口大、九州大、長崎大、熊本大、大分大、宮崎大、鹿児島大、神戸市外国語大などに102人が合格。私立大は、明治大、早稲田大、立命館大、西南学院大、福岡大、立命館アジア太平洋大などに延べ2577人が合格

\*プロフィールは、2026年3月時点のものです。



アドバイザー

文部科学省 初等中等教育局  
主任視学官

田村学

たむら・まなふ

専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同省同局視学官、國學院大學教授などを経て、現職。著書に、『学習評価』(東洋館出版社)など多数。

\* 同校が取り組む資質・能力の視点での授業づくりについては、本誌2021年度6月号「新課程に向けて描く『学校教育デザイン』」で紹介しています。ウェブサイト『VIEW next ONLINE』の「高校版バックナンバー」([https://view-next.benesse.jp/view\\_section/bkn-hs/article01812/](https://view-next.benesse.jp/view_section/bkn-hs/article01812/))からアクセスしてください。

図1 1年次の単元配列表(抜粋)

教科	単元	1学期			2学期		
		4	5	6	7	8	9
国語	現代の国語	「本当の自分」幻想	現代の「世論操作」	スピーチで	学習教材		
		「本当の自分」幻想を読み、評論文における論の構造を整理し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。	現代の「世論操作」を読み、筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者としての問題意識を持つ。	分かりやすいスピーチがどの「羅生門」について	「羅生門」について		
		情報整理力 課題解決力 発信力	情報整理力 課題解決力 協働	発信力 自他の尊重 チャレンジ精神			
国語	言語文化	見のそら寝	なよ竹のかくや姫	漁夫之利・虎の威を借る狐			
		「原のそら寝」を読み、古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形のおもしろさを読み取る。	「なよ竹のかくや姫」を読み、伝奇的な作り物語という文章の理解を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	「漁夫之利」「虎の威を借る狐」を読み、漢文の訓読に慣れるとともに、古典が現代に生きる言葉であることを理解する。	「伊勢物語」の特徴		
		情報整理力 課題解決力 自他の尊重	情報整理力 課題解決力 協働	情報整理力 課題解決力 発信力			
地理歴史	地理総合	地図と地理情報システム	結び付きを深める現代世界	世界の地形と人々の生活			
		地図の特徴を理解し、地図から適切な情報を読み取る力を身につける。	国際社会における国家の役割を理解し、地域間の相互関係を理解する。	世界の特徴的な地形が、人々の生活に与える影響を理解する。	気候がする		
		情報整理力 課題解決力 協働	情報整理力 課題解決力 協働	情報整理力 課題解決力 発信力			

育成を目指す6つの資質・能力を、「情報整理力」は紫、「協働」は赤などと色分けし、教育課程全体でバランスよく育成できていることを視覚化した。

図2 単元デザインシート 国語「現代の国語」の例

国語科(現代の国語) 単元デザインシート

単元名	「『文化』としての科学」を読み、筆者の主張を対比的に理解し、科学と技術と私たちの理想的な関係を考察しよう。					
単元目標・評価規準(身に付けさせたい力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理的な文章を読み、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨を理解する。【知識・技能】</li> <li>②文章を読み、科学と技術と私たちの関係について自分の意見を述べ述する。【思考・判断・表現】</li> <li>③本文の論述方法を参考に、自分の意見が的確に伝わるように工夫して説明しようとする。【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>					
学習課題(主たる問い)	情報整理力	課題解決力	発信力	協働	自他の尊重	チャレンジ精神
8時間	◎		○	◎		○
1次(4時間)	<p>1 本文を速読して重要なキーワードを確認し、全体を三つの段落に分ける。</p> <p>2 各段落の要旨をまとめ、文章展開の構造を理解する。【知】</p> <p>3 「科学」と「技術」の違いに留意して筆者の主張を理解する。</p>					
2次(1時間)	<p>4 筆者が自分の考えをより一般化するために用いている文末表現を指摘し、その効果について話し合う【態】</p>					
3次(3時間)	<p>5 「科学の技術化」「産学連携」など、現状の科学と技術の関係について</p> <p>6 本文で述べられている問題提起をふまえて、科学と技術と私たちの理想的な関係について述べ述する。◎「科学と技術ではどちらがより私たちの役に立つか?」【考】</p>					
単元末課題	<p>7 単元末課題</p> <p>8 本文で述べられている問題提起をふまえて、科学と技術と私たちの理想的な関係について述べ述する。◎「科学と技術ではどちらがより私たちの役に立つか?」【考】</p>					
評価	<p>9 《評価基準(ルーブリック)》</p> <p>A: 本文の内容や論理展開を的確に捉え、論拠を明らかにして科学と技術と私たちの関係を考察できている。</p> <p>B: 本文の内容や論理展開をふまえて、科学と技術と私たちの関係を考察できている。</p> <p>C: 本文の内容や論理展開の把握、科学と技術と私たちの関係の考察が不十分である。</p> <p>D: 単元末課題の評価基準</p> <p>【知】 【考】 【態】 各項目の主な評価項目を挙げる。【知】知識・技能 【考】思考・判断・表現 【態】主体的に学習に取り組む態度</p> <p>※ 上記の場面以外にも、毎時間の活動の様子等を評価の参考とする。</p> <p>※ 定期考査においても、すべての学習内容から「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p>					

見直し① 「知識・技能」を評価する小テストの実施時期を加え、評価対象をより明確に。  
見直し② 「主体的に学習に取り組む態度」の表出が見込まれる話し合いの場面で生徒に期待する姿を言語化して評価規準を明記。それによって「主体的に学習に取り組む態度」を的確に評価できるようになり、その記録は総括的評価の材料にもなる。  
※図1・2ともに学校資料を基に編集部で作成。

田村 貴校が定める6つの資質・能力のうち、「情報整理力、課題解決力、発信力」は「思考・判断・表現」に、「協働、自他の尊重、チャレンジ精神」は「主体的に学習に取り組む態度」にひもづけることは、生徒に身につけさせたい資質・能力を意識した授業づくりにつながります。評価規準を具体化すれば、資質・能力の育成により直結した授業と評価が実現されるでしょう。

小野 積極的に話し合いに参加していれば主体性があると評価しています。ただ、そのような見取りでよいのだろうかと思っています。

田村 話し合いにおいて生徒に期待する姿を言語化し、それを評価規準として単元デザインシートに明記するとよいでしょう(図2②)。

田村 例えば評価の観点が「協働」であれば、「他者とともに力を合わせて」「各自のよさを生かしながら」などと具体的に示します。そうすることで根拠を持って見取れるとともに、総括的評価につながるようになります。

小野 単元デザインシートの改善の方向性が見えてきました。

能力を真に見取ることができると単元末課題になっていくかを検討する研修の実施などが考えられます。

田村 単元デザインシートの国語の例を拝見すると、評価の場面と評価の場面とをより明確に

評価基準を明記している観点は主に単元末課題で評価する「思考・判断・表現」のみですね。ほかの2つの観点はどのように評価していますか。

小野 「知識・技能」は授業内で行う小テストと、定期考査や長期休業明けに行う実力考査で評価しています。「主体的に学習に取り組む態度」は授業のワークシートや振

り返しシートの記述内容、週末課題の提出状況で評価しています。

田村 評価対象の小テストを授業内で行うのであれば、評価の場面を明確にするためにも、「学習課題」に明記するとよいでしょう(図2①)。

5時間目に行う対話を通じた学習では、「主体的に学習に取り組む態度」を評価するようですね。